
ドーナツのような星があったなら

夕霧ありあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドーナツのような星があったなら

【Nコード】

N1800M

【作者名】

夕霧ありあ

【あらすじ】

もしも、ドーナツ型の惑星があったらそれはどんな星だろうか？地球と似たような、生命がいる星だったら、どうだろうか？ーとある少年の、空想でつくられたロー・スケールなのにハイ・スケールなお話。

これは、ぼくの空想の物語。

もしかしたらあるかもしれないけれど、多分きつと、ないであろうこと。ぼくの勝手な、くだらない夢でしかない。

誰かに見てほしい訳じゃない。だけど、誰かが好意だかなんかで見てくれるならこれ以上に嬉しいことはない。

だから、ぼくはこの物語を書き記すことにしよう。

もしも、ドーナツみたいな惑星があったなら。

ぼくたちが住む地球から見ればぼくたちの目に入ることはないだろうし、天体望遠鏡を使ったとしてもドーナツの形には見えないだろう。

だけど、近づいてみると、確かにドーナツの形をしている。

何もなくて、地殻がむき出しになっているなら揚げたてのようで美味しそうだと思う。けれど、地球と同じように青と緑に覆われていたら、ちっとも美味しそうには見えない。

ドーナツの惑星？ そんなの夢の世界だけの話だろ？ 理屈はあるのかい？

そう、バカにしたって構わない。これはぼくの夢の中の話だ。理屈もぼくなり、つけられる。

ドーナツの惑星には、重力は誰もが立つ地面の真ん中 すなわ

ち、ドーナツの生地、芯の所にあるのだ。だから、ぼくたちが住む星と同じように、裏側に立っていたって、落ちることはない。

もしもドーナツの惑星に生き物がいるならば。

惑星は海に囲まれ、真っ青であるだろう。そこから、生き物は種を増やし進化していく。

やがて大気が出来上がり、ドーナツにかけるチョコレートのように、うっすらと星を覆う。

当然、太陽みたいな恒星があつて、熱と光をドーナツの惑星に与えている。熱と光はあらゆる方向に降り注いでいるといっても、やはり、その恩恵をあまり受けられない場所が存在する。それが何処か、君にはわかるかい？

そう、ドーナツの内側だ。

だから、生き物がまず栄えたのは、ドーナツの外側。

もしもドーナツの惑星に人が住んでいるとしたら。

ドーナツの外側に住む人は、自分は平面的な世界に住んでいると思ひ込む。ドーナツの内側に住む人も、そう思う。もっとも、内側から見上げた空には反対側の景色が移る筈だけれども、大気と空にかかる海のお陰でまさか人が住んでいるとは思わないだろう。

やがて海を渡り、人は世界地図を作るようになる。その地図は平面の世界のもので、あまり正確ではないだろう。だけど、その平面地図はドーナツの星の大地を描くのはとっても都合がいい、と後に解ることになる。

どうして都合がいいかつて？ 紙を丸めて、丸めた紙で輪っかを作っごらん。ほうら、確かにドーナツの形になるだろう？

やっぱりこの星にも研究者はいて、天体学者もいる。そうなると、

自分たちの住む星はドーナツの形をしているって、気づいてしまっんだな。

そしてドーナツの惑星に住む人が、今の地球の人類以上に科学技術を発達させたとするならば。

有人のロケットを使って、ドーナツの星を縦横無尽に駆け巡ることが出来るだろう。

ドーナツの穴に出入りしたり、ドーナツの外側をぐるりと回ったり。きつと、地球をロケットで巡り巡るよりも、さらにもっともつと面白いに違いない。

さらに、ドーナツ型のUFOなんて作っちゃったりして他の知的生命体がいる星に、自分達が住んでる星はこんな形をしているんだよ、ってアピールすることも出来る。もしかしたら、地球にも、やってきているかもしれないよ？

だけど、地球にある資源が有限なように、ドーナツの星も、資源が有限なんだ。

だから、温暖化とか森林破壊とか砂漠化とかエネルギー問題とか、地球でも起こっている問題がこの星でも起こっている。

やがて、人類は滅びることになるだろう。

ドーナツの星に人類がいなくなったら。

それでも、荒れた環境に適応した生き物は精一杯生きようとしている。

ゴキブリやありんこのように、無駄に生命力がある生き物なんて少なからずこの星にも存在しているだろう。

それでも、ドーナツの星には寿命が存在している。

ぼくたちから見れば、ずっとずっと長い時間　何十億年もの時間を生きて、時の流れを見つめ続けているけれども、星もひとつの生命なんだから、やがて終わりが来る。無限大とニアリーイコールだったとしても、無限大とイコールではないってことさ。

例えドーナツの星の命が終わってしまったても、すぐにドーナツが消えてしまうということではない。少しずつ、星を構成している物質が空に散っていき、宇宙に還っていくんだ。地球の生きとし生けるものが、やがて土に還っていくように。

そして、ドーナツは宇宙に食べられるんだ。

……これで、ぼくの話はおしまいだ。

最初にも言ったように、これはぼくの勝手な空想だから、ドーナツの星は本当に出来てしまうものかもわからない。

だから、この物語は、君の心の中だけにとっておいてほしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1800m/>

ドーナツのような星があったなら

2010年10月11日07時50分発行